

東京2020大会「イチ押し」

東京2020大会はオリンピック、パラリンピックともに無観客で行われた。現地での観戦はかなわなかったが、こども記者はテレビなどを通して自国・地元での大会に触れた。日本選手団は活躍し、多くのメダル

を獲得したが、それだけではなく、努力や友情、チームの和など沢山の記憶を残した。こども記者がそれぞれの「イチ押し」をまとめた。(クレジット表示がない写真については、毎日新聞社提供)

挑む姿 感動



柔道男子100kg級決勝、韓国の趙グハム選手を破り金メダルに輝いたウルフ・アロン選手(左)



フェンシング男子エペ団体決勝で優勝を決めて喜ぶ(手前左から)見延和靖、山田優、宇山賢、加納虹輝の各選手



卓球混合ダブルスで中国ペアとの決勝を制した伊藤美誠選手(手前)と水谷隼選手

卓球

58歳、年齢関係なく

ルクセンブルクのニー・シャリーエン選手(58)は、オリンピックの卓球史上最年長です。女子シングルス2回戦で敗れました。

た。韓国のシン・ユビン選手(17)とは41歳の年齢差でしたが接戦でした。年齢に関係なく頑張る素晴らしい選手だと思いました。(小4/大堀立真)

小さなボールを速く

1番すごいと思ったのは、日本の卓球選手です。卓球のボールはとても小さくて速くてあてにくいのに、さらに速くボールを難しいところへ返し、しかもみんなメダルを取ったからです。(小4/KOUKI)

ラリーで勝負する

石川佳純選手は、女子団体では主将、選手団では副主将を務めています。サーブが得意で、ラリーで勝負するプレースタイルです。(小5/林莉央)

あきらめず大逆転

混合ダブルスの準々決勝、ドイツ戦でマッチポイントを握られた水谷隼・伊藤美誠両選手の頭の中には、あきらめないという一言があったと聞きました。2人の気持ちから生まれた大逆転に、感動しました。(小6/水上清佳)

フェンシング

世界1位を破って

フェンシング男子エペ団体で日本は準々決勝で世界ランキング1位のフランスを破って勝ち上がり、日本初の金メダルを獲得しました。エペは世界的にはフェンシングの中で最も人気が高く、競技人口も多いですが、



スポーツクライミング女子複合決勝で、同じ組になって登る野口啓代選手(手前)と野中生萌選手(区立千石保・林町小出身)

スポーツクライミング

猛スピードで登って

今回初めて選ばれた競技です。スピード種目で選手たちは赤色のホールドを信じられないスピードで登っていました。(小4/渡邊葵)

引退試合で銅メダル

女子複合で、32歳の野口啓代選手が銅メダルを獲得しました。特に、最終種目のリードで高く登り、TOPまで行く勢いでした。今回が引退試合だった野口選手はインタビューで、「野中選手とメダルを獲得できてうれしく」と話していました。(小4/中澤琉璃)

柔道

意外な料理人

ウルフ・アロン選手は100kg級の柔道家です。見た目と名前は怖そうだけど、実は料理人 YouTuberです。カンパチ1匹まるごとを、きれいにさばき、見事に盛り付ける姿は意外でしかありません。こんなにエプロンが似合い、金銀2個もメダルをもつ柔道家はいませ

21年ぶりの快挙

100kg級のウルフ・アロン選手は文京区第一中学校出身です。私は金メダルを取る瞬間をテレビで観戦し、100kg級のメダルは21年ぶりということを知り驚きました。混合団体では難民選手団が出場。嘉納治五郎が築いた柔道は今でも世界中で親しまれているスポーツだと感じました。(小6/田中杏依)